

様式1

**知識集約型社会を支える人材育成事業（メニューⅠ・Ⅱ）  
中間評価調書**

【公表】

1. 大学名	
2. 整理番号	
3. メニュー	
4. 事業計画名	
5. 事業プログラム に参加する学生 の所属学部等名	
6. 事業期間	令和2年度～令和6年度（5年間）

7. 事業計画責任者	職名・氏名	
8. 事務担当者	職名・氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	e-mail	

【公表】

9. 事業の概要（※400字以内）

## 10. 本事業プログラムへの学生受入状況

1. 令和6年度の本事業プログラム受入学生定員(1学年あたり)

--

2. 学生選抜の状況

--

3. 受入学生数の実績(令和4年5月1日現在)

(1)総表

年度	学年					
	学士課程1年	学士課程2年	学士課程3年	学士課程4年	修士課程1年 (メニューⅡのみ)	修士課程2年 (メニューⅡのみ)
令和2年度	0	0	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0	0	0
令和4年度	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

(2)年度別・学生の所属学部別

【令和2年度】

学部等名	学年					
	学士課程1年	学士課程2年	学士課程3年	学士課程4年	修士課程1年 (メニューⅡのみ)	修士課程2年 (メニューⅡのみ)
年度計	0	0	0	0	0	0

--

【令和3年度】

学部等名	学年					
	学士課程1年	学士課程2年	学士課程3年	学士課程4年	修士課程1年 (メニューⅡのみ)	修士課程2年 (メニューⅡのみ)
年度計	0	0	0	0	0	0

--

【令和4年度】

学部等名	学年					
	学士課程1年	学士課程2年	学士課程3年	学士課程4年	修士課程1年 (メニューⅡのみ)	修士課程2年 (メニューⅡのみ)
年度計	0	0	0	0	0	0

--

## 11. 本事業プログラムに参画する教員一覧

令和4年4月1日現在

No.	所属	職名	専攻分野	氏名	プログラムにおける役割
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					

進捗状況の概要 (1 ページ以内)

Blank area for progress summary.

**(1) 事業の実施体制 (3 ページ以内)**

各進捗状況について、具体的に記載してください。

- ① 学内の組織的な実施体制が整備されているか (学長を中心とした体制の整備、FD・SDの実施体制の整備、学内への周知徹底を含む。)。【学内の実施体制】

② 取組の自己評価が適切に実施できる体制が整備されているか。【評価体制の整備】

③ 客観的なエビデンスに基づいたPDCAサイクルが機能しているか。【PDCAサイクル】

(メニュー： 、大学名： )  
(事業計画名： )

**(2) 事業の具体的な取組の進捗状況 (7 ページ以内)**

各進捗状況について、具体的に記載してください。

**① 公募時の審査要項で示した評価項目 (別紙 2) に則して、取組は着実に進捗しているか。【取組の進捗状況】**① 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化② 授業科目・教育課程の編成・実施③ 学修成果・教育成果の把握・可視化④ 学修成果や教育成果、教育の質に関する情報の公表

## ② 目標に対する達成度はどうか。【目標に対する達成度】

【本事業プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標の達成状況】

	R2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度		R6 年度	
	目標	実績								
						—		—		—
						—		—		—
						—		—		—

【取組と成果】 ※目標の設定根拠、実績の算出方法、達成状況に係る分析や取組の成果について記載

**(3) 事業の実施計画・継続性 (2ページ以内)**

各進捗状況について、具体的に記載してください。

① 各年度の計画に基づき、着実に事業が実施されているか。また、今後の見通しはどうか。【計画の実施状況・見通し】

② 学内体制、専門人材の配置や学外との連携体制、FD・SDの実施等の面から、補助期間終了後も継続的かつ発展的に事業が実施されることが十分見込めるものとなっているか。【体制的な継続性】

③ 資金計画の面から、補助期間中、事業規模を縮小せず計画を遂行することが見込める内容・進捗となっているか。また、補助期間終了後も継続的かつ発展的に事業が実施されることが十分見込めるものとなっているか。【資金的な継続性】



**(5) 採択時に付された留意事項及び現地視察報告書への対応 (3 ページ以内)**

各進捗状況について、具体的に記載してください。

**① 採択時において付された留意事項への対応を適切に行っているか。【採択時に付された留意事項への対応】**

採択時において付された留意事項	対応状況

② 現地視察報告書において付された課題・意見への対応を適切に行っているか。【現地視察報告書への対応】

現地視察報告書において付された課題・意見	対応状況

**事業計画を通じて構築される全学的なマネジメント改革への対応状況（1 ページ以内）**

進捗状況について、教学マネジメントの観点を含めて具体的に記載してください。なお、本項目の記載内容については、関連する評価項目及び総合的な判断の参考とします。

(6) 経費執行の適切性 (年度毎に1ページ以内)					
①取組内容に照らし、経費執行を適切に行っているか。【経費執行の適切性】					
令和3年度までの実績報告(「補助対象経費別内訳対比表」の「実支出額」)に基づき記載してください。				記載例 : 教材印刷費 ○○○千円 ○○部×@○○○円 : 謝金 ○○○千円 ○○人×@○○○円	
(単位:千円)					
<令和2年度>	経費区分	補助金額 (①)	大学負担額 (②)	実支出額 (①+②)	備考
[物品費]					
①設備備品費					
.					
.					
②消耗品費					
.					
.					
[人件費・謝金]					
①人件費					
.					
.					
②謝金					
.					
.					
[旅費]					
①旅費(うち国内旅費)					
.					
.					
②旅費(うち外国旅費)					
.					
.					
③旅費(うち外国人招聘旅費)					
.					
.					
[その他]					
①外注費					
.					
.					
②印刷製本費					
.					
.					
③会議費					
.					
.					
④通信運搬費					
.					
.					
⑤光熱水料					
.					
.					
⑥その他(諸経費)					
.					
.					
令和2年度		合計			

(前ページの続き)

＜令和3年度＞	経費区分	補助金額 (①)	大学負担額 (②)	実支出額 (①+②)	備考
	[物品費]				
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費				
	・				
	・				
	[人件費・謝金]				
	①人件費				
	・				
	・				
	②謝金				
	・				
	・				
	[旅費]				
	①旅費(うち国内旅費)				
	・				
	・				
	②旅費(うち外国旅費)				
	・				
	・				
	③旅費(うち外国人招聘旅費)				
	・				
	・				
	[その他]				
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)				
	・				
	・				
	・				
令和3年度	合計				



# 別添資料

メニュー：

大学名：

事業計画名：

【該当する調書の箇所：p.○】

【該当する調書の箇所：p.○】